

科目名称(Course Title)				担当教員 (Instructor)	
多文化共生論				平野 真、矢口芳生、芦田信之 張 明軍、三品 勉、篠原正人	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	1 年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>経済活動がグローバル化するなかで、外国との交流が不可欠な時代となってきた。一方では、政治情勢の不安定化や経済格差が広がり、保護主義的な風潮も広まってきた。言語、文化、価値観の違いを超えて交流するには、相手の立場を理解し、自分の立場を主張できる能力が必要である。様々な国や民族の文化・歴史・社会制度等の違いや多様性を理解し、多くの国々や人々と共生できる国際社会の実現を目指すため、留学および業務などの海外での生活・暮らし等、実際の滞在経験を基にした知識経験を踏まえた講義により国際感覚を養う。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>多文化共生について理解し、あるいは理解しようと努力する態度を身につけ、あるいは他者との差異を認識ができるようにすること（他者理解と自己理解）を目指す。海外での滞在経験を踏まえた現地での生活等の様子を数多く紹介することにより、留学や海外での業務上のことだけではなく、海外からの訪問者や留学生、長期滞在者等との国内での交流にも役に立つ知識や作法を身につける。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	多文化共生とは何か（矢口） オリエンテーション、グローバリゼーションと多文化共生				
第 2 回	マイノリティとマジョリティ				
第 3 回	多文化社会と社会統合のあり方				
第 4 回	多文化共生とは何か（芦田） 国際協力				
第 5 回	応用倫理学 国際倫理				
第 6 回	日本人から見た外国の暮らし（三品） 米国で暮らして気がついたこと				
第 7 回	米国の大学－留学を成功させるためのヒント				
第 8 回	日本人から見た外国の暮らし（篠原） 英国・オランダに住んで				
第 9 回	ヨーロッパと日本のビジネス文化				
第 10 回	日本人から見た外国の暮らし（平野） 米国での事業経験から				
第 11 回	中国・欧州での研究取材から				
第 12 回	外国人から見た日本の暮らし（張） 留学生の世界へ				
第 13 回	外国人市民とどう付き合うか				
第 14 回	多文化共生とインバウンド観光				
第 15 回	多文化共生に関する市民意識調査				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
授業計画に書かれている各回のテーマを確認し、必要な予習・復習をすること					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
担当者講義ごとに「授業感想シート」の提出（授業終了10分程度前に記入してもらおう）。各教員14点の持ち点とし、計98点、13回以上出席者に2点を加算。	授業感想シートについて次の評価とする 講義内容の理解 4点、論旨の明快さ 4点、その他（誤字・脱字、適切な句読点、その他評価者独自の加算事項、授業態度、等） 2点、合計98点（14点×7人）。最後に13回出席者に2点を加算。
テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	適時プリントを配布する
備考 (Other Information)	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	